

いちじくの新梢誘引と害虫防除

令和5年6月17日

〈新梢誘引の目的〉

- ①枝の揺れを抑えます。
→果実の品質低下（スレ果）を抑えられます。
- ②果実に光が届きます。
→果実品質が向上します（着色向上等）。
- ③枝葉の混雑を解消し、風通しを良くします。
→果実品質が向上します（スレ果減少、着色向上、病虫害の発生抑制）。

〈誘引の時期〉

新梢の葉が10枚～12枚展葉し、新梢長が40～50cmに達した頃に誘引を始めます。

〈誘引の仕方〉

図1のように、新梢の間隔が片側50cm(千鳥で約25cm)になるように誘引します。支柱やマイカ線にひもで誘引します。あとで、ひもが食い込まないように、余裕を持たせて結びます。

また、マイカ線の場合は、緩む場合があるため、適時点検をしましょう。

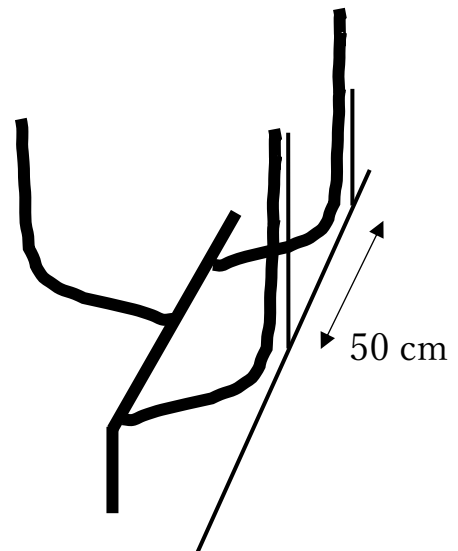


図1. 誘引間隔

〈害虫防除〉

● カミキリムシ類

いちじくで問題となるのは主に、クワカミキリムシとキボシカミキリムシです。クワカミキリムシは6月上旬から9月上旬、キボシカミキリムシは6月下旬から9月末に発生します。クワカミキリムシは直径が2 cm ほどの新梢に産卵します。キボシカミキリムシは凍害等を受けた弱った樹に産卵をします。ほ場で見かけたら捕殺しましょう。



図2. カミキリムシ類による被害樹

防除方法

- 捕殺
- 産卵痕の中の卵をつぶす
- 薬剤散布
- 樹を弱らせない